

令和7年度 手取川・梯川水系流域治水協議会

議事概要

1. 日時：令和8年3月16日（月）13：55～15：00
2. 場所：各機関よりWEB会議での開催
3. 出席者：別紙「出席者一覧名簿」のとおり
4. 議題
 - (1) 手取川、梯川水系流域治水プロジェクト 2.0 について
 - (2) 手取川・梯川水系流域治水プロジェクトにおける各機関の取組状況について
 - (3) 流域治水に取り組む主体を増やす流域治水の自分事化について
5. 議事概要
 - (1) 手取川、梯川水系流域治水プロジェクト 2.0 について
手取川、梯川水系流域治水プロジェクト 2.0 について、【資料－1】を用いて事務局より説明した。
説明内容について構成員から意見、質問はありませんでした。
 - (2) 手取川・梯川水系流域治水プロジェクトにおける各機関の取組状況について
手取川・梯川水系流域治水プロジェクトにおける各機関の取組状況について【資料－2】を用いて代表的な取組について各機関より説明した。
説明内容について、構成員から意見、質問はありませんでした。
 - (3) 流域治水に取り組む主体を増やす流域治水の自分事化について
流域治水に取り組む主体を増やす流域治水の自分事化について【資料－3】を用いて事務局より説明した。
説明内容について、構成員から意見、質問はありませんでした。
6. 流域治水に対する意見
〈小松市長〉
 - ・小松市では、内水被害のハード対策として国の交付金を活用し、排水ポンプ場の機能増強が令和6年10月に完成したほか、導水路や遊水地の整備を引き続き進めている。
 - ・ソフト対策として雨水管理総合計画や防災指針の策定、策定に伴う立地適正化計画の改定にも取り組んでいる。
 - ・雨水管理総合計画の策定については、浸水のしやすさと地域の重要度の指標から市内67ある排水区のうち、6地区を重点排水区とする雨水管理方針を公表し、重点対策排水区における具体的な段階的対策計画の策定に取り組んでいる。

- 今後も流域治水の取り組みを、国、県、市が連携し、流域一体となり、特定都市河川の指定等による様々な施策の活用により、ハード整備やソフト対策の強化をより一層、充実強化、充実加速していく必要性があると考えている。

<白山市長>

- 市街地の浸水対策として、雨水排水路整備を継続実施するとともに、水害リスクの解消に向けて、内水浸水想定区域図を追加したハザードマップを作成し、令和7年3月に全戸配布した。
- 今春から市の防災拠点として、市役所横に白山市役所危機管理センターの運用を開始する。災害対策本部室を設置し、総合防災情報システムを導入して、災害時に迅速かつ確実な情報収集および情報発信を行う体制を整える。
- 浸水の恐れがある本庁舎地下の非常用電源設備を地上へ移設した。
- 危機管理センターでは、県や自衛隊、警察、消防、気象台等との関係機関と連携し、災害対応業務を行うことを想定している。
- 今後、訓練を通じて、危機管理センター、総合防災情報システムの運用を確認することにより、さらなる防災への対応力を向上していきたいと思っている。
- 災害が激甚化、頻発化する中、流域治水プロジェクトに基づくハードとソフトが一体となった防災・減災対策のさらなる充実や強化に取り組んでいく。

<能美市長>

- 能美市においても、事前防災という考え方のもと、ハード・ソフト両面を前倒しで取り組んでいきたい。
- 市内の大半を占めます梯川流域において、特定都市河川指定制度の活用に向けて議論を重ねていき、国、県、小松市と協議を重ね、より具体的な検討へと本格的に着手していきたい。

<野々市市長>

- 手取川・梯川、減災・流域治水において、流域の自治体、国、県の連携が大事だと改めて感じている。それぞれの取り組みも含めて、情報共有していきたい。
- 野々市市の減災、防災の取り組み事例の中では、ハザードマップをウェブ上でも確認ができる状況まで進んでいる。さらに、その機能を例えば金沢市の水防のアプリケーションとも是非連携をして共有できるもの、その利活用を図らせていただければ大変ありがたい。国、県での調整も含めて今後連携して取り組むことができれば良いと感じている。
- 流域治水では、それぞれの自治体、課題に対してさまざまな取り組みを行っているが、国、県の事業の中で、補助、交付金をいただき進めているものもあれば、自治体独自の取り組みも多くある。国、県からの財政的な支援をぜひお考えいただきたい。

以 上

